
応援者の準備と留意点

心構え・姿勢、準備、 初日に行うこと、自身の健康管理

※本資料は、令和2年度厚生労働行政推進調査事業費（厚生労働科学特別研究事業）新型コロナウイルス感染症等に対する健康危機管理対応の人材育成のための研究（20CA2084）の助成をうけ作成しています。
※2020年12月7日現在の情報に基づき資料を作成しています。

井口 理(あや) 日本赤十字看護大学看護学部



応援者の基本的な心構え・姿勢

- 応援に入る先は、数ヶ月に渡り多くの対応を迫られている被災地であり、受援体制が未整備な場合もあることを理解する。
- 以下の自然災害時の基本姿勢に加え、長期的対応も視野に入れて持続可能な体制づくりを支援する伴走者としての心構えが求められる。
- 応援に入ると、感染拡大の原因となる様々な実態や感染拡大防止策に関する課題に気付くこともあるが、倫理原則を踏まえつつ、現状に即して応援者としての役割遂行に努める必要がある。



(参考)

応援派遣者としての姿勢（心構え）

- 1.被災自治体主体の原則
- 2.被災自治体の地域特性や組織体制の理解
- 3.被災地の住民及び職員に寄り添った配慮ある行動
- 4.指示待ちではなく自ら考えて行動すること
- 5.現状・課題に対し単なる提案や指摘ではなく、被災地と共に考え実行すること
- 6.チームとしての責任ある行動と引継ぎによる継続的、計画的な課題解決への志向
- 7.住民への直接的な支援と間接的な支援による貢献
- 8.チームワーク、協調性
- 9.保健師としての基本的な能力、災害支援経験や研修など被災地支援の基礎知識の活用
- 10.安全確保・健康管理

（引用）奥田博子ほか：災害時における保健師の応援派遣と受援の検証による機能強化事項の検討：応援派遣保健師の受援自治体へのインタビュー調査。厚生労働科学研究費補助健康安全・危機管理対策総合研究事業 災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証（研究代表者 宮崎美砂子）、平成30年度総括・分担報告書、2019。

応援に入る準備：情報

応援先の

- 地域特性
- 感染状況



- 当該自治体の新型コロナウイルス感染症対策

把握するため、報道発表や当該都道府県等および保健所のホームページ等から情報を収集する

＊改めて後でお伝えします



応援に入る準備：資機材・文具

応援業務で必要となる資材を想定し、確認する。

- ・ 受援側で準備されているのか
 - ・ 応援側で準備するのか…組織等で準備するのか、個人で準備するのか
- ＜必要となる資機材の例＞
- ・ パソコン、Wifiルーター
 - ・ モバイルプリンター、モバイルスキャナー
 - ・ 筆記用具（ボールペン、マジック、蛍光ペン、メモ帳）
 - ・ 文房具（ホチキス、ハサミ、のり、ふせん、穴あけパンチ）
 - ・ 情報共有ノートまたはファイル
 - ・ 応援派遣組織の共有物品を入れるための袋またはボックス
 - ・ 感染防護具等（サージカルマスク、手指消毒剤など一般的な資材の他、N95マスク、ゴム手袋、フェイスシールド等）



応援初日に理解すること

1. 空間と物品の場所

- 自分の居場所や携行品の置き場所
- 疫学調査・電話相談の記録用紙や利用できる電話の場所
- 地図・医療機関情報・関係機関の連絡先などの基本情報の入手場所
- 情報共有のツールと場所
- コピー機・事務用品・シュレッダーの場所

2. 人員配置と役割分担

- 業務内容に関する依頼(指示)は誰から受けて誰に報告するのか
- 相談できる人は誰か、誰と役割を遂行するのか

3. 求められている仕事の概要

- 自分が従事する業務の手順
- 記録内容と記載漏れしてはいけない項目
- 報告のタイミング等を理解する。



役割を担いながら理解すること



1. 全体像の把握

- ・「一般電話相談」「濃厚接触者・発熱者相談」「陽性者を対象とした積極的疫学調査と療養方針の判断」等、平行する業務について、どこで、誰が分担しているのか、全体像を理解することで、**自分の担当業務の意義や目的を正しく認識し、よりスムーズに連携できる。**

2. 応援チームでの情報共有と役割

- ・判断に迷い相談した例や、聞き慣れない用語の意味、クラスター発生コミュニティの就労形態等に関する情報共有は、**複数の応援者が、より早く質の高い応援業務を行うことにつながる。**
- ・応援の初期段階では、例えばマニュアル作成担当、必要物品手配担当、シフト調整担当等の分担により、**効率的な応援体制の整備につながる。**

3. 改善の工夫

- ・柔軟に応援体制を整えつつ、より効率的に業務改善できる点があれば受援側に提案し、実行する。提案は、実現可能かつ効果を見込める改善策であることが望ましい。良い提案は、受援側との信頼関係構築にもつながる。



自身の健康管理



- 自身が感染しない・感染経路にならないために、応援に入る10日前からは特に健康管理に留意する
- 応援中、発熱などの症状が出たら応援先に報告し、勤務を見合わせる

症状が出たら

- 発熱
- 呼吸困難、倦怠感
- 咳などの風邪症状

➡受診する医療機関や受診のタイミングについて

かかりつけ医に電話で相談する

(相談先に迷う場合) 受診・相談センター (保健所等)

